

言語運用からみた除去動詞の「場所格交替」

黒田 廉

0. はじめに

ドイツ語には(1)のような2つの用法をもつ動詞がある。動詞 *scheuern* は、文 a では<主語+動詞+4格+方向>という統語構造で用いられ「移動」を、文 b では<主語+動詞+4格>という統語構造で用いられ「(移動による)状態変化」を表す。両者の違いは移動物と場所のどちらに焦点を当てているかにあり、客観的には同じ状況を描いているとされることが多い。¹⁾

(1) a. Er scheuert den Schmutz von den Dielen.

b. Er scheuert die Dielen.

(1)のような名詞の現れる位置の変化は「場所格交替 (lokative alternation)」、 「壁塗り交替 (spray paint alternation)」あるいは「目的語交替 (Objektvertauschung)」などとよばれるが、論理的に文 a の「移動」が文 b の「状態変化」の前提となるためか、一般に前者が基本で後者はその交替形として関連づけられる。²⁾

「移動」と「(移動による)状態変化」の2用法をもつ動詞は、*scheuern* のような単一動詞の他に不変化詞動詞の一部にもみられる。³⁾ そのような動詞のうち *abspülen*, *abwischen*, *abreiben*, *abtupfen* の4つをコーパスで調査した黒田 (2005) によれば、「移動」の文と「状態変化」の文は、そもそも基本形のように扱われる前者の方が後者よりも数が少なく、⁴⁾ それぞれが実際に表す状況もかなり異なるという結果が得られた。

本稿の目的は、いくつかの除去を表す単一動詞について(1a)のような「移動」の文と(1b)のような「状態変化」の文の頻度および両者の対応の程度を、コーパスを用いて実際の言語運用から調査・検証することにある。

1) たとえば、Ickler (1993), Ogawa (1988), 在間 (1987), (英語の例であるが) 岸本 (2001) など。なお、文 a では「部分的解釈 (partitive Interpretation)」が可能であるが、文 b ではもっぱら「全体的解釈 (holistische Interpretation)」が読み込まれるという違いはよく指摘される。

2) ただし、影山 (1996: 267ff) のように例: I wiped popcorn salt from my palms. / wipe the table で table を状態変化の対象ではなく働きかけの対象とする立場では(1b)の方が基本となるであろう。

3) 除去動詞に関しては、岡本 (2002) に単一動詞、不変化詞動詞を含めリストがある。他に *füllen*, *packen* のような「詰め込み」を表す動詞や、よく知られているように *be-*動詞と単一動詞の間にも「場所格交替」はみられる。

4) *abreiben* のみは「移動」の方が「状態変化」よりも高頻度である。

1. 調査対象および調査方法

本稿で取り上げた動詞は、除去に関して「場所格交替」を示すとされる動詞のうち、waschen, wischen, schälen, spülen, scheuern の5つである。⁵⁾ 分析対象とするデータは Institut für Deutsche Sprache がインターネット上で提供している検索システム COSMAS II を利用し、次のように収集した。

まず、Public – alle öffentlichen Korpora geschriebener Sprache から、各動詞の例を変化形も含めて検索した。検索結果を出力する前に、動詞が中性名詞化している例をあらかじめ削除し、無作為で300例を抽出した。ただし、scheuern のみは検索結果が300に満たず174例がすべてであった。中性名詞化した例をあらかじめ排除したのは、項がないこと、⁶⁾ 同形の名詞と形式上区別できないこと、⁷⁾ にもかかわらず比較的頻度が高いことによる。

次に300例の中から、〈主語＋動詞＋4格＋方向〉あるいは〈主語＋動詞＋4格〉という統語構造をもつ例をすべて取り出した。〈主語＋動詞＋4格＋方向〉という統語構造の例でも、(2) のような〈方向〉が到達点の例あるいは(3) のような複数ある例は除外した。⁸⁾ (4) のような例は〈主語＋動詞＋4格〉という統語構造をもち「状態変化」を表すが、状態変化の原因が物の移動ではないため、対象外とした。⁹⁾ 他に(5) のような慣用表現、(6) のような抽象的ことがらを表す例および(7) のような検索されてしまう若干の不変化詞動詞も除外した。

- (2) Am 15. August 1997 wusch der Dorfbach Tonnen von Geröll und Schlamm *in den Obwaldner Ort* hinunter. (Züricher Tagesanzeiger, 20.02.1998)
- (3) Die Augen auf den gelben Sand geheftet, gelingt vielleicht der Fund von Resten eines Silberschatzes, den das Meer *aus einem der unzähligen Schiffswracks an dieser Küste ans Ufer* gespült hat. (Frankfurter Rundschau, 15.08.1998)
- (4) *Sein Rücken* ist vom Liegen blutig gescheuert. (Berliner Morgenpost, 02.05.1999)
- (5) Die Spieler *sind mit allen Wassern gewaschen*. (Salzburger Nachrichten, 11.10.1995)
- (6) Er begann als Linker, wurde im Zuge der 68er Bewegung nach rechts gespült und verbunkerte sich nachher als einsamer Verfechter eines dem 19. Jahrhundert entlehnten Populismus, ... (Züricher Tagesanzeiger, 09.01.1996)
- (7) "Eigentlich wasche ich gar nicht gerne *ab*", sagt die 53jährige Frau,... (Züricher Tagesanzeiger, 20.07.1998)

5) 動詞の選択に関しては、岡本(2002)、在間(1987)を参考にした。

6) 2格付加語で項に相当するものが表示されることがあるが、多くはない。

7) たとえば、spülen の中性名詞化したものは名詞 Spüle の複数形と区別できない。

8) このような例が見つかった動詞は spülen, waschen, wischen である。いずれの動詞でも状態変化表現は起点にのみ見出し出され、到達点や複数の場所についての状態変化表現は存在しない。

9) 動詞 scheuern でみられた。

以上の手順を経て収集した例を、「移動」の文と「状態変化」の文とに分け、それぞれ総数を算出した。両者の対応については、主として、「移動」の文で前置詞の目的語となる名詞と「状態変化」の文で4格目的語となる名詞を比較することによって判断した。実際に項となる名詞の傾向を知るために、主な名詞を頻度とともに示した。

2. 調査結果

2. 1. schälen

schälen の場合、上述の手順によって収集した例は 183 である。このうち、「移動」は 5 例のみで、その他 178 例はすべて「状態変化」であった。

【表 1】schälen 183 例中の「移動」と「状態変化」の数と全体に占める割合

「移動」	「状態変化」
5	178
2.7%	97.3%

「移動」の 5 例は (8) のようにすべて「(内部から) 取り出す」という意味である。これに対し、「状態変化」の例はすべて (9) のように「(表面の) 皮をむく」という意味であり、互いに別の状況を表し、対応関係が成立しない。

(8) Da musste die ganze Familie mithelfen, die Maiskolben aus *den Blättern* zu schälen.
(St. Galler Tagblatt, 19.10.2001)

(9) Er ist gerade dabei, *eine Kartoffel* zu schälen. (Frankfurter Rundschau, 22.08.1998)

「移動」に現れる名詞、「状態変化」に現れる名詞、両方に現れる名詞の例をまとめた結果が表 2 である。状態変化表現で *Kartoffeln*, *Zwiebeln* といった名詞の頻度が高いという特徴があるが、これはドイツ語圏の食文化の一端を示すものであろう。

【表 2】schälen の「移動」, 「状態変化」に現れる名詞

「移動」 / 「状態変化」	数 ¹⁰⁾	名詞の例 ¹¹⁾
「移動」と「状態変化」両方	0	*
「移動」	5	Maiskolben+Blätter(1), Käse+Cellophankleid(1), Behälter+Kasten(1), Brotzeit+Zeitungsapier(1), Handtücher+Zellophan(1)
「状態変化」	190	Kartoffeln(29), Zwiebel(22), Knoblauch(15), Spargel(13), Apfel(8), Gurken(7), ...

10) 動詞が複数の目的語をとるため、例文数を表す表 1 とは数値が異なることがある。

11) 同一の名詞ならば単数形と複数形は区別せず頻度の高い方の形を挙げてある。また *Kartoffel* と *Erdapfel* のような同義語、*Fußboden* に対する *Boden* のような省略形については同じ名詞として扱った。

2. 2. spülen

spülen の場合、収集できた例は 62 であった。このうち、(10) のような移動表現は 8 例、(11) のような状態変化表現は 54 例である。

(10) Die Werksfeuerwehr spülte den Kalk von *den Straßen* und reinigte die umstehenden Autos.
(Mannheimer Morgen, 19.10.2002)

(11) Die Tropfen werden größer, kommen heftiger. Ein kurzer Stopp. Das Dach hebt sich elektrisch aus seiner Versenkung. Nur zwei leichte Handgriffe sind für die Arretierung nötig. *Die Straße* vor uns ist zwar nass, aber sauber gespült.
(Berliner Morgenpost, 11.08.1999)

【表 3】spülen 62 例中の「移動」と「状態変化」の数と全体に占める割合

「移動」	「状態変化」
8	54
12.9%	87.1%

「移動」と「状態変化」の両方に現れる名詞は (10)、(11) の *Straße* のみである。ただし、(10) では移動物は「石灰」であるが、(11) ではとくに特定の物質ではなく一般的な意味での汚れと考えられる点は異なる。¹²⁾ 移動表現、状態変化表現それぞれに現れる名詞、双方に現れる名詞の例を表 4 に示す。状態変化表現で *Geschirr*, *Teller*, *Gläser* などの食器の類が頻度が高い。

【表 4】spülen の「移動」、 「状態変化」に現れる名詞

「移動」 / 「状態変化」	数	名詞の例
「移動」と「状態変化」両方	1	<i>Straße</i> (1)
「移動」	7	<i>Dreck</i> + <i>Körper</i> (1), <i>giftige Stoffe</i> + <i>Körper</i> (1), <i>Kalk</i> + <i>Straßen</i> (1), <i>Schmutz</i> + <i>Kanälen</i> (1), ...
「状態変化」	59	<i>Geschirr</i> (10), <i>Toilette</i> (7), <i>Teller</i> (4), <i>Gläser</i> (4), ...

2. 3. waschen

waschen の場合、156 例が抽出された。このうち、(12) のような移動表現は 3 例のみで、その他 153 例はすべて (13) のような状態変化表現である。

(12) "Zwischendurch schaffte er es einmal kurz ins Badezimmer", wo er sich am Waschbecken das Blut von *seinem Körper* waschen konnte“,... (Kleine Zeitung, 25.01.1999)

(13) Sicher ist nur, daß *sich* der 17jährige nach der Tat gewaschen und umgezogen hat, ehe er in Richtung Salzburg fuhr. (Vorarlberger Nachrichten, 12.05.1998)

12) 状態変化表現では移動物は明示されないが、文脈から判断した。

【表5】 waschen 156 例中の「移動」と「状態変化」の数と全体に占める割合

「移動」	「状態変化」
3	153
1.9%	98.0%

両表現ともに見い出せる同一の名詞はない。ただし、(12) と (13) についてはどちらも「血を体から洗い落とす」という状況を表すことから、実質的には対応していると言えるであろう。「移動」、「状態変化」それぞれに現れる名詞、どちらにも現れる名詞の例を表6に示す。「状態変化」で、再帰代名詞や Hände のような身体・身体部位、Wäsche や Kleider などの衣類、Erdbeeren, Gemüse などの食材を表す語が多い。

【表6】 waschen の「移動」、「状態変化」に現れる名詞

「移動」 / 「状態変化」	数	名詞の例
「移動」と「状態変化」両方	0	*
「移動」	3	Naziparolen+Fassade(1), Blut+Körper(1), Arsen+Gebirgsstein(1)
「状態変化」	162	sich(23) ¹³⁾ , Wäsche(20), Hände(10), Auto(6), Kleider(5), Erdbeeren(4), Gemüse(4), ...

2. 4. wischen

wischen の場合、対象となった例は 73 である。このうち、(14) のような移動表現は 52 例、(15) のような状態変化表現は 21 例みられた。wischen は本稿で対象とした動詞で移動表現が状態変化表現より頻度が高い唯一の動詞である。

(14) Ich wische mir den Schweiß von *der Stirn* und umfasse das Lenkrad fester.

(Frankfurter Rundschau, 20.07.1999)

(15) ... der Dichter muß sich in der ungewohnten Schwüle *die Stirn* wischen, die vor Erregung feuchten Hände am Taschentuch trocknen.

(Die ZEIT, 04.01.85)

【表7】 wischen 73 例中の「移動」と「状態変化」の数と全体に占める割合

「移動」	「状態変化」
52	21
71.2%	28.8%

13) 再帰代名詞は sich で代表させた。

wischen では、2つのタイプの表現が対応している例を3組見出すことができる。このうち、2組については共通する名詞は Stirn であり、(14)、(15) のような「汗を拭き取る」という状況が表されている。1組は (16)、(17) で、Auge が共通で「涙を拭き取る」という状況が表現されている。

(16) ... der Vater des erschossenen Mancam Mtobehli wischt sich die Tränen aus *den Augen*.

(Die ZEIT, 09.08.85)

(17) Ab und zu hörte man ein Schluchzen in einer Frauenstimme, oder eine Männerstimme klickte komisch. Grossmama zirpte wie ein Vögelchen und wischte sich *die Augen* mit einem Spitzentuch.

(St. Galler Tagblatt, 04.12.1998)

表8に移動表現と状態変化表現それぞれで現れる名詞、どちらにも現れる名詞の例を掲げる。移動表現で表される状況は、「涙を目から拭き取る」、「汗を額から拭き取る」のようになんげ限定されているという特徴がある。¹⁴⁾ 状態変化表現では Stirn, Hände などの身体部位を表す語は22個中6で比較的少なく、Boden, Treppe のような建物の一部を表す語が多い。

【表8】wischen の「移動」、「状態変化」に現れる名詞

「移動」／「状態変化」	数	名詞の例
「移動」と「状態変化」両方	3	Stirn(2), Auge(1)
「移動」	50	Tränen+Augen(16), Schweiß+Stirn(14), Träne+Gesicht(2), Träne+Wange(2), ...
「状態変化」	22	Boden(4), Treppe(2), Tisch(2), Stirn(2), Hände(2), ...

2. 5. scheuern

scheuern の場合、収集できた例は42である。このうち(18)のような移動表現は2例のみで、他の40例はすべて(19)のような状態変化表現であった。

(18) Zwei Minuten nach Mitternacht erscheint Dorte regelmäßig in der Bibliothek des Herrensitzes Steensgard auf der Insel Fünen, um mit einem Backstein die Blutflecken ihres Mannes Otte Emmiksen vom *Parkett* zu scheuern. (Vorarlberger Nachrichten, 30.05.1998)

(19) Leung Ming Yuk putzt Toiletten, wäscht Geschirr, scheuert *Böden*.

(Frankfurter Rundschau, 22.12.1997)

14) 場所を身体部位としてまとめた場合は、52例中48例を占める。

【表 9】scheuern 42 例中の「移動」と「状態変化」の数と全体に占める割合

「移動」	「状態変化」
2	40
4.8%	95.2%

対応関係については、「移動」と「状態変化」の双方に共通してみられる名詞は存在しなかった。(18) と (19) については (18) の Parkett が「床」を意味することを考えれば、(19) の Böden と対応するとは言える。ただし、Böden を項とする「状態変化」の文は 4 つあるが、4 つとも移動物は (19) のような「血」ではなく、すべて日常生活でみられる一般的な汚れである。移動表現と状態変化表現それぞれで現れる名詞、どちらにも現れる名詞の例を表 10 に示す。

【表 10】scheuern の「移動」、「状態変化」に現れる名詞

「移動」／「状態変化」	数	名詞の例
「移動」と「状態変化」両方	0	*
「移動」	2	Blutflecken+Parkett(1), Wolle+Leib(1)
「状態変化」	41	Böden(7), Bank(3), Stube(2), ...

3. まとめ

以上、「場所格交替」の動詞のうち schälen, spülen, waschen, wischen, scheuern の 5 つを対象に、コーパスを利用することによって、移動表現と状態変化表現それぞれの出現頻度および両表現の対応の程度についてみてきた。その結果、移動表現と状態変化表現の頻度には顕著な差があり、wischen 以外の 4 動詞では状態変化表現の方が圧倒的に多かった。黒田 (2005) による ab- 動詞の調査でも同様に状態変化表現の方が高頻度であったことを考え合わせると、¹⁵⁾ 人間はものを取り除く行為そのものよりも、取り除いた結果の方に関心があると言えるかもしれない。また、2 つの表現タイプの個々の文をみていっても、ほとんどの場合対応するペアを見出すことはできなかった。¹⁶⁾ 「場所格交替」の動詞がもつ表現上の可能性と実現される表現との間にはズレがみられると言うことになる。

人間の直観・内省に基づく作例を主に利用した理論的研究が言語使用の実態を必ずしも反映

15) ただし、「移動」と「状態変化」の割合は、本稿で扱った単一動詞の場合ほど極端な差を示さない。abspülen 「移動」28%、「状態変化」72%、abwischen 「移動」40%、「状態変化」60%、abreiben 「移動」61%、「状態変化」39%、abtupfen 「移動」33%、「状態変化」67% である。

16) be- 動詞については成田 (2005) に begießen と gießen の対応関係の調査がみられる。それによれば、各々の動詞の用例 50 のうち begießen の典型的なパラフレーズである etwas auf/über etwas gießen に該当する例は 3 例のみで、2 つの動詞がそれぞれ表すことからの違いはかなり大きいという。

していないという指摘は近年多くなされてきている。¹⁷⁾「場所格交替」の研究も、従来は2つの用法間に対応関係が想定できることに着目し、そのような用法をもつ動詞の意味的特徴を抽出する、あるいは少数の作例により名詞句の意味的制限を示すことによって、交替の条件を探ろうとするものが中心であった。今後はコーパスをもとに、実際に項となる名詞とその頻度も重視した言語記述を行いつつ、言語知識の実際に即した説明を試みる必要もあるであろう。本稿はその出発点に過ぎない。

引用文献

- 岡本順治 (2002):「除去動詞の位置交替について」 岡本順治・成田節編『いわゆる「分離動詞」をめぐって』日本独文学会研究叢書 023, 12-25.
- 影山太郎 (1996):『動詞意味論——言語と認知の接点——』くろしお出版.
- 岸本秀樹 (2001):「壁塗り構文」 影山太郎編『日英対照 動詞の意味と構文』大修館書店, 100-126.
- カン・ミンギョン (2003):「言語運用にみるドイツ語「状態変化動詞」の自他」 東京外国語大学大学院ドイツ語学文学研究会編『Der Keim』Nr.27, 47-69.
- 黒田 廉 (2005):「言語運用からみた除去動詞の「交替」について」 日本独文学会北陸支部『ドイツ語文化圏研究』第3号, 31-47.
- 在間 進 (1987):「統語構造に基づく動詞的意味の変容現象」 東京外国語大学論集第37号, 145-157.
- 成田 節 (2005):「ドイツ語の be- 動詞表現 —— 対格化をめぐって ——」 敦賀陽一郎 (他) 編『言語情報学研究報告7 コーパス言語学における語彙と文法』東京外国語大学大学院地域文化研究科 21 世紀 COE プログラム, 361-381.
- Ickler, I.(1993): Kasusrahmen und Perspektive im Deutschen und Englischen. In: Studien zu Deutsch als Fremdsprache. Hrsg. v. Theodor Ickler. Hildesheim, 151-200.
- Ogawa, A. (1988): Überlegungen zum syntaktischen Status einiger Verbpräfixe. In: Wirkendes Wort Heft 3. S. 439-456.

17) カン (2003) は、次のような「使役交替」について、他動詞の目的語と自動詞の主語両方に現れる名詞は非常に少ないと述べている。Das Kind zerbrach das Glas. / Das Glas zerbrach.